

## みらいず2 (民間支援団体) の事例

# 自分で決めることの大切さ

～子どもたちの生きる力につながるように～

—特定非営利活動法人 み・らいず2にお聞きしました—

### ～活動の概要～

- 自分時間プロジェクト：週1回程度活動。子どもたちが家庭も大切にしつつ自分の時間を持てるようにする
- チャレンジプロジェクト：月3回程度活動。子どもたちが仲間と協力し、やってみたいことを企画、実践する
- あきらめずにチャレンジしているよプロジェクト：月1回程度活動。多様な大人と出会い多様な仕事を知る機会を提供
- 啓発セミナー：年1回程度、学校関係者や行政の子育て支援担当、子ども食堂関係者を対象にセミナーを開催
- 地域での勉強会：年3回程度、地域の行政や教育機関、自立アシスト事業、子どもサポートネットなどと勉強会を開催

ある日の夕刻、大阪市住之江区の「み・らいずパーク」を訪れると、1階のオープンキッチンで夕食の準備が進んでいました。訪問した日は「自分時間プロジェクト」の日。子どもたちは、16時ごろから集まり始め、2階の畳の部屋で宿題をしたり、遊んだりして、18時ごろからスタッフと一緒に手作りの食事をいただきます。活動の概要や目的、大切にしていることなどを「み・らいず2」の榎谷さんと木之本さんに伺いました。

### —活動の内容を教えてください—

「自分時間プロジェクト」では、宿題をしたり友達と遊んだり自分の時間を自由に過ごせるようにしています。「あきらめずにチャレンジしているよプロジェクト」では、自分の将来を想像できるようにネイリストやプログラマーの方の話を聞いたり、木工作業体験などをすることで、多様な仕事を知る機会を提供しています。最近では、自分たちで様々な「やってみたいこと」を企画・実践することにもチャレンジしています。

### —子どもたちはどんな様子でしょうか？—

1年ほど前から取り組んでいますが、最初はよそよそしかった子どもたちが最近では子ども同士で会話したり、自分たちが挑戦したいことを話し合い・提案できるようになってきました。力がついてきたなと感じています。面と向かっては言いませんが、本当は話を聞いてほしいと思っている子どもが多いように思うので、できるだけ隣に座って話を聞くようにしています。そうやって会話を繰り返すことで、困りごとを話してくれるようになっていきます。

### —とは言え、思春期真っ最中の子どもたちが すぐに困りごとを話してくれるのでしょうか？—

なかなか話してくれませんね(笑)。家のことは聞かれたくないし話づらいことです。緊張していたり話しかけられたくないと思っている可能性もあるので、スタッフは、常に相手に合わせて接するように心掛けています。子どもたちの様子から「どんな場所やどの人にだったら話せるのか」と考えています。また、活動の後は約1時間、スタッフ同士で振り返りをしています。主に子どもたちの様子や接し方などを共有していますが、その時に子どもたちのことを「○○な子だ」と決めつけないことも大切にしています。

### —地域との連携について教えてください—

年に3回程度、地域で勉強会を開催したり、「み・らいずパーク」に来てくれている子どもたちの様子を伝えるために毎月学校を訪問しています。また、地元の中学校在席事業をすることで、普段から学校や地域と情報共有や連携が図れるようにしています。

### —子どもたちが『自分で決める』ってどういうことでしょうか？—

「み・らいず2」では体験活動を大切にしています。ヤングケアラーを含む困難な状況にある子どもたちや、自分の時間を持てていない子どもたちは、自分のやりたいことを選べない状況におかれていることがあります。子どもたちが自分で選んでいくためには、選択肢は多いほうがよいと思うのですが、その選択肢は自分の体験や経験からしか得られないと思うのです。ここに来れば、自分の話をしっかり聞いて、やりたいことを受け止めてくれる大人がいます。「自分で選ぶ・決める・経験する」ということを繰り返していくことが、生きる力になるのではないのでしょうか。子どもたちが現状をあきらめずに将来を思い描ける機会を提供できればいいなと思っています。



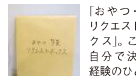
「み・らいず2」の榎谷さんと木之本さん



夕食の様子。手作りの食事をスタッフと一緒に



新聞紙にくるまって楽しそうに遊ぶ子どもたち



「おやつ・夕食リクエストボックス」。これも自分で決める経験のひとつ



「み・らいずパーク」子どもたちが好きなことをしたり、話を聞いてもらうなど、体験活動をする大切な居場所です



「み・らいず2」のホームページ▶

## ふうせんの会 (民間支援団体) の事例

# ピアサポートによるヤングケアラー支援

～ヤングケアラーが自分らしく生きるためにできること～

—特定非営利活動法人 ふうせんの会にお聞きしました—

### ～活動の概要～

- つどい：年6回(奇数月)開催。現・元ヤングケアラー・若者ケアラーが集まる場。対面とオンラインを併用
- ふうせんカフェ：年6回(偶数月)開催。テーマを設け、5名ほどの少人数で話をするオンラインサロン
- ピアサポーター研修の実施：年2回。現・元ヤングケアラー・若者ケアラーの運営スタッフ等対象(25名)
- 動画コンテンツの制作：ヤングケアラーをテーマとした多言語字幕付き動画を制作・配信



### —「ふうせんの会」について教えてください—

「ふうせんの会」は、家族のケアを担っている(いた)子ども・若者や、ヤングケアラーに関する専門職が集まってきた団体で、令和元(2019)年12月から活動しています(当初は任意団体、令和4(2022)年2月にNPO法人化)。ヤングケアラー・若者ケアラーが安心して交流できる場をつくり、彼らが夢をもって自分らしく生きていけるような社会を作るために、活動しています。



「つどい」の様子

### —「つどい」とは、どのような活動でしょうか？—

「つどい」では、前半は1名が自身の経験などを語るリレートーク、後半はグループに分かれて少人数でのトークという構成にしています。自らの経験を人前で話すのは勇気がいることであり、参加者の中には、ケアのことを話して傷ついた経験のある人もいます。このため安心して語れる場となるよう右の4つのグランドルールを設けています。また、スタッフには社会福祉士などの専門職や元ヤングケアラーもいますので、参加者の気持ちに寄り添った支援ができると考えています。参加者は現役のヤングケアラーと元ヤングケアラーのどちらもいらっしゃいますが、「話を聞いてくれる人がいてよかった」「安心して話すことができた」「孤独を感じていたが、仲間が見つかった」「否定されずに話を聞いてもらえてよかった」などの感想をいただいています。毎回、参加いただく方もいらっしゃるので、現・元ヤングケアラー・若者ケアラーの大切な居場所になっていると感じています。



「つどい」4つのグランドルール

### —活動にあたって大切にされている想いをお聞かせください—

参加者(現・元ヤングケアラー・若者ケアラー)が安心して語れることを大切にしたいと思っています。そして、彼らが、自分らしく生きられるようになってほしいと思っています。それには丁寧な関わりが必要で、ピア(仲間)だからこそ寄り添える部分があると思います。また、参加者を支える側にも元ヤングケアラーだった方がおり、参加者が気持ちよく活動できるようサポートしています。時には、参加者に寄り添いすぎることによって、支える側が傷ついてしまうときもありますが、そうなった場合は、支える人を専門職が支えるようにしています。私たちの強みは、やはりピアサポートです。当事者や元当事者だからわかることやできるアドバイスがあります。ヤングケアラーや若者ケアラーが自分らしく生きていくためのお手伝いを続けていきたいと思っています。



「ふうせんの会」のホームページ

### 「ヤングケアラー」という視点を取り入れる意義 ～事例集を読んで～

大阪公立大学准教授 濱島 淑恵

寄稿

ヤングケアラーの支援は何か特別なことをするわけではありません。従来のように、レジリエンス<sup>(\*)</sup>、エンパワメント等を目指し、フォーマル、インフォーマルな社会資源が協働し、多角的に、包括的に支援を行います。そこに、「ヤングケアラー」という視点が入ることにより、支援の幅が広がり、それによって子どもの置かれている環境、家庭の状況が大きく変わることが、ここで紹介されている事例をみると、実感できると思います。いずれの事例も高い専門性と熱意で、バイオニアとして素晴らしい実践をされています。特に、スクールソーシャルワーカー、行政の相談窓口は多職種・多機関連携を進める上で欠かせません。社会福祉法人、民間支援団体は、柔軟に、細やかに、寄り添うことができます。多様な主体がヤングケアラー支援に携わることの必要性も再確認できます。これらの事例を参考にしながら、「氣にかけてくれる大人がいる」地域づくりが、府域全体に進むことを期待したいと思います。  
(\*) ストレスや困難な状況をいよやかに乗り越え回復する力